

首都圏居住者 住まいの安全・安心について重要性を再認識
『耐震性能等の建物構造』、『防災対策』、『有事の際の対応』への関心高まる
 ～「長谷工アーベストWEBアンケート(4月)」より～

(株)長谷工アーベスト(本社:東京都港区、社長:岡 正徳)は、首都圏居住者(以下、モニター)に対し、2011年4月にWEBアンケートを実施し、「安全・安心に住まうことへの意識」について分析を行いました。(調査期間:2011年4月4日～4月10日、有効回答件数:2,660件)

「安全・安心に住まうことへの意識」については、9割の方が『意識が高まった』と回答。先般の東日本大震災により、住宅の耐震性など安全面についての重要性を再認識されている様子が窺える結果となりました。

また、「安全・安心に住まう為に重要なこと」については、『耐震性能等の建物構造』、『防災対策(防災設備や簡易トイレ設置等)』という回答が多く、‘非常時ライフラインの確保’、‘食料や防災用品などの備蓄庫・グッズ’、‘近隣とのコミュニケーション’といった『有事の際の対応』も、これからの住まいには必要という声が多く聞かれました。命を守るための“安全”の確保と、生活における“安心”の享受が、今後より一層住まいに求められると考えます。

「安全・安心に住まうことの意識の変化」について(グラフ)

安全・安心に住まうことに対しては、『意識が非常に高まった(45%)』、『意識がやや高まった(45%)』と9割の方が『意識が高まった』と回答。お客様からは「住宅が安全である事の精神的な有難さ、安心感の大きさを実感した」等の声が聞かれ、住宅の安全面についての重要性を再認識されている様子が窺えました。また、住宅の購入検討状況別で見ると、検討中の方が『意識が非常に高まった(55%)』と最も多く回答しており、安全・安心に住まうことを強く意識していると考えられます。

「安全・安心に住まう為に、住宅に重要なこと・必要なもの」について(グラフ)

安全・安心に住まう為に、住宅に重要だと思う項目の1位は『耐震性能等の建物構造(91%)』、2位は『防災対策(防災設備や簡易トイレ設置等)(56%)』となっています。

また、これからの住まいに必要なと思うものとしては「非常時の水の確保、給水システム」、「食料や防災用品などの備蓄庫」、「炊き出しなどが出来る設備とスペース」、「日頃からの近隣コミュニケーション」等の声が聞かれ、安全を確保する建物の構造・設備の他『有事の際の対応』という視点が住まい選びの条件の一つになっています。

「耐震性・耐久性についての意識の変化」(グラフ)

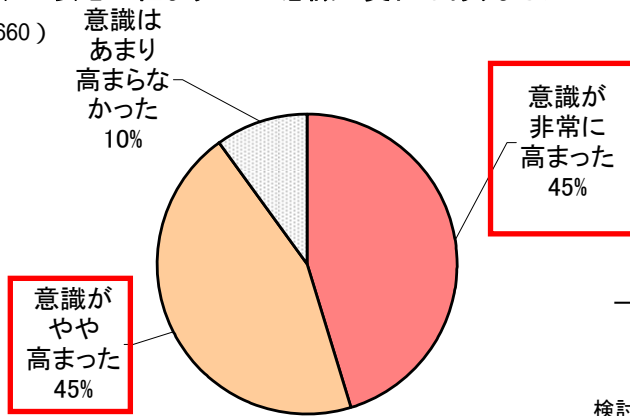
「建物の耐震性」、「建物の耐久性」の重視度の変化を見てみると、共に以前の調査よりも重視度が高まっています。大震災により、「命を守るための“安全”の確保と、生活における“安心”の享受」を満たす住まいとして、今後は耐震性、耐久性などの建物構造・基本性能がより重視される傾向になっていくと考えます。

【この件に関するお問い合わせ先】
 (株)長谷工アーベスト 企画部門
 執行役員 水谷 英夫
 TEL 03-5440-5850

「安全・安心に住まうことの意識の変化」について (グラフ)

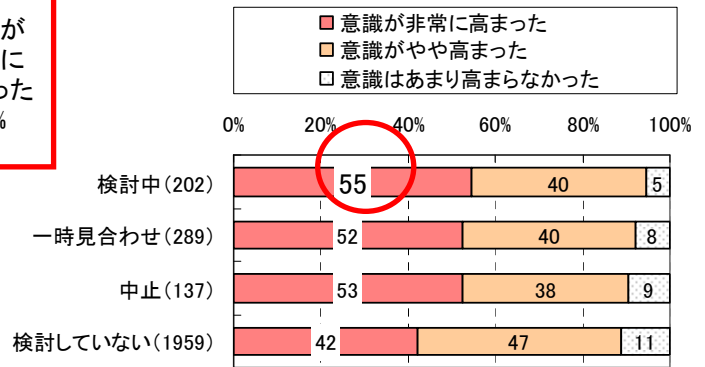
Q. 安全・安心に住まうことの意識に変化はありましたか？

(N=2660)



**安全・安心への意識が更にアップ
90%**

■住宅の購入検討状況別



【安全・安心に住まうことへの意識に関する声】

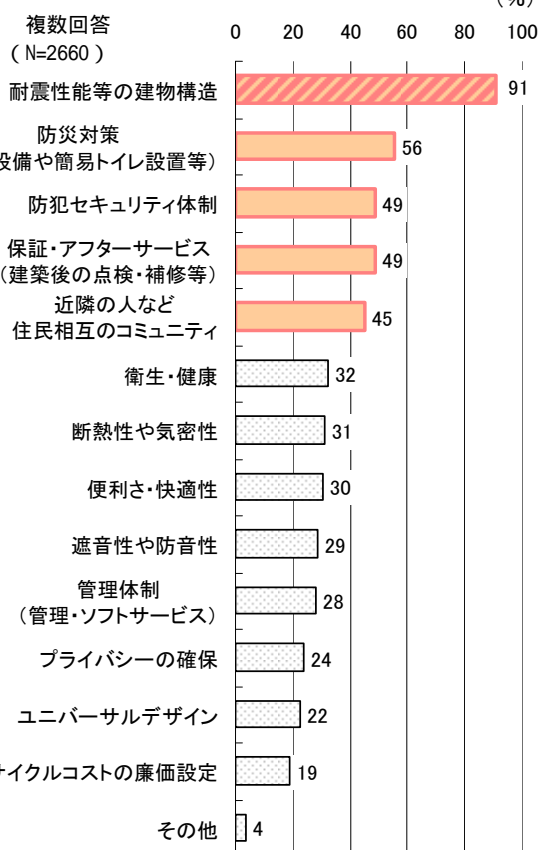
(凡例:年齢/現住居形態)

“住宅の重要性を再確認した” “住まい選びで重視する条件を見直した”

- 人間の基本の欲望である、衣食住の三要素の中の「住」の大切さを再確認し、地震など災害に対する備えが重要だと思った。(37歳/賃貸マンション)
- 自分の留守の間の子供のことを考えると、安全な住まいは最優先なことだと思った。(32歳/賃貸マンション)
- 今回の地震で、今住んでいるところがかかなり揺れました。一時、身の危険も感じました。当たり前だが身の安全を確保する住まいは非常に大切だと思った。(46歳/アパート)
- 報道されている被災地の映像を見て、住宅が安全である事の精神的な有難さ、安心感の大きさを実感しています。(49歳/戸建持家)
- 大地震で、住んでいるマンションの選び方の正しさを改めて感じた。耐震性や安全面に関して、ステイタス程度にしか考えていなかったが、本当の意味での安全性(命を守ること)を考え直させられたので。(45歳/分譲マンション)
- 昭和58年建築の中古マンションに住んでいる為、大地震で倒壊しないか不安になった。(50歳/分譲マンション)

「安全・安心に住まう為に、住宅に重要なこと・必要なもの」について (グラフ)

Q. 安全・安心に住まう為に、住宅にはどのような事が重要ですか？



■「安全・安心に住まう為に、これからの住宅に必要なもの」

<安全を確保する建物の構造・設備>

- 建物の耐震構造のみでなく、家具の耐震設備の常備や災害時に対するの備えをする。(54歳/社宅・官舎)
- 免震などの耐震構造の強化。緊急時における管理体制の確保及びスムーズな対応。(45歳/賃貸マンション)

<非常時のライフライン等の確保>

- 非常時の水の確保、給水システム。(40歳/分譲マンション)
- 緊急時の電力の確保。例えば、電気自動車などの蓄電池を利用することができるなど。(44歳/戸建持家)
- 太陽光など自然エネルギーの活用。1つのエネルギー源に頼らない事。(46歳/戸建持家)

<防災設備の設置>

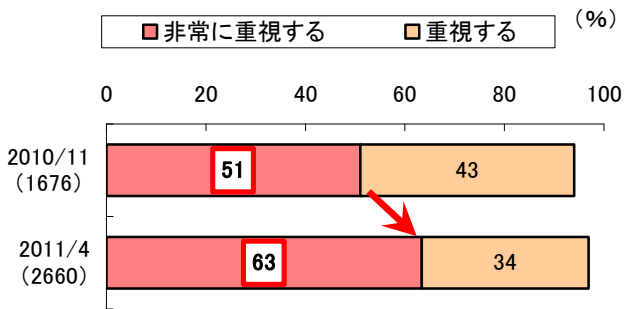
- 食料や防災用品などの備蓄庫。(52歳/分譲マンション)
- 炊き出しなどが出来る設備とスペースがあれば良い。(34歳/賃貸マンション)
- 防災対策、仮設トイレなど。(34歳/分譲マンション)

<近隣コミュニティの強化>

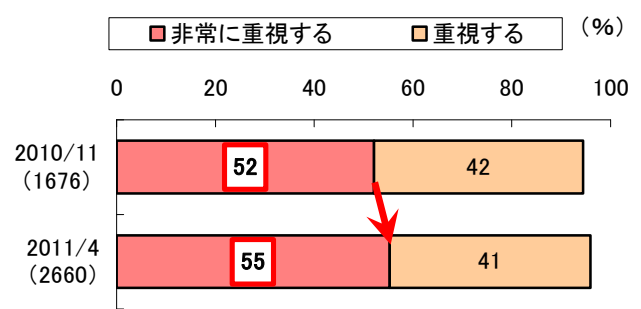
- 建物の安全性はもちろん、日頃からの近隣のコミュニケーション、災害対策を作っておく事。(42歳/分譲マンション)
- 住民たちで防災訓練など行うことも必要と感じました。(44歳/分譲マンション)
- 免震構造は絶対条件。今は一人暮らしなので、規模の大きい集合住宅でコミュニティが形成されていることも生活面では重要。(65歳/分譲マンション)

「耐震性・耐久性についての意識の変化」 (グラフ)

Q. 建物の『耐震性』が高いことを重視しますか？



Q. 建物の『耐久性』が高いことを重視しますか？



(2010/11 は、「2011 年の住宅購入計画についての調査」より。調査期間:2010/11/29~12/2、対象:首都圏モニター)

【住まいの重視点(優先事項)に関する声】

- ・ 建物の耐震構造に対する考えが変わった。これからの家作りには必要不可欠な物になって来ると思う。
(35 歳/アパート)
- ・ 今回の地震の際、耐震の 11 階に居住しており、PC、本、花等が落ちて壊れたり、散乱した。しかし、仙台市の免震構造の 13F に居住していた友人の部屋は、そういう被害は全くなかったとのことで、免震構造の違いを思い知った。
(51 歳/分譲マンション)